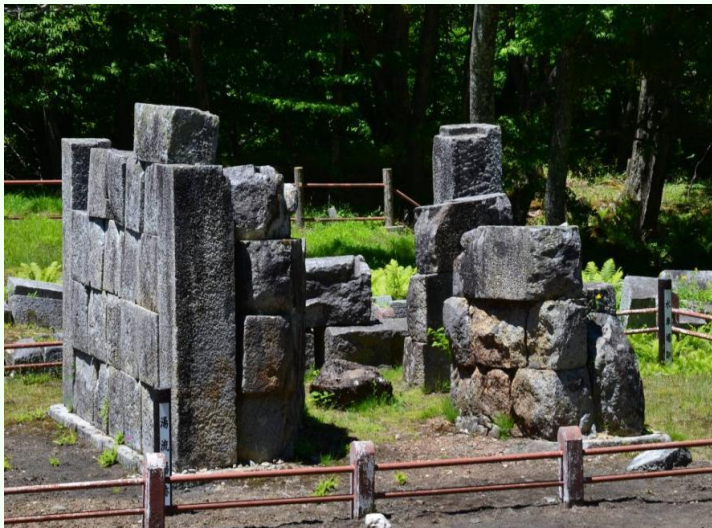
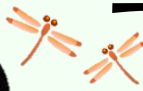


三陸ジオパーク構想3分講座

はしのこうろあと (釜石：橋野高炉跡 編)

1853年（嫌でござんす）、ペリー来航。
皆さんはどうやって暗記しましたか？
日本史のテストには必ず出るこの事件。
鎖国をしていた江戸幕府を大きく揺るがしましたが、
なんと！ここ釜石も動かしたのです。



その後平成の世まで釜石では鉄が生産されましたが、近代製鉄発祥の地として釜石が繁栄したのは、ペリー来航がきっかけだったのです。鉄の歴史のターニングポイントとなったこの場所を訪れて時代のロマンを感じてください。
(政府は今年度、世界文化遺産として「橋野高炉跡」を含む「明治日本の産業革命遺産」を推薦する方針を決定しました)

幕府はじめ諸藩は日本の防備を強固にし、外国船を追い払うための大砲が必要になったことから、原料の鉄をここ「橋野」や山を挟んだ「大橋」で造ろうとしたのです。この大プロジェクトを指揮したのは、盛岡藩士のおおしまたかとう大島高任。



彼が釜石を選んだのは、鉄鉱石が採れるからだけではありません。鉄生産に必要な原料から高炉の素材まで、鉄づくりに理想的な環境が釜石にあったからです。

釜石の鉄は、大地（ジオ）の恵みがまさに結晶したものとと言えます。



リアス・ハイウェイ 早期 実現 釜石 大会



たくさんの事例を紹介し、初めてジオパークという言葉に接した聴講者にもわかりやすくお話しいただきました。
沿岸7市の市長が全員出席しジオパークについて学ぶ貴重な機会となり、認定に向けて構成市町村の意識がひとつにまとまった感じがしました。

七市でつくる三陸沿岸都市会議の主催により、沿線十七市町村の首長ら関係者約八五〇人が参加。
記念講演では日本ジオパーク委員会の渡辺真人氏から講演いただきました。渡辺氏はジオパークの楽しみ方について国内の



八月二十七日、東日本震災後、国が「復興道路」と位置付けて整備する三陸沿岸道路（仙台港北〜八戸）の早期完成を目指す「リアス・ハイウェイ早期実現釜石大会」が釜石市で行われました。
八戸、久慈、宮古、釜石、大船渡、陸前高田、気仙沼の

